

特248  
559

岡山縣信用組合聯合會ト岡山縣購買販賣  
組合聯合會トノ合併問題ニ對スル主張

(代 膾 寫)



\*0026067000\*

0026067-000

特248-559

岡山縣信用組合聯合會ト岡山縣  
購買販賣組合聯合會トノ合併問  
題ニ對スル主張

岡山縣信用組合有志會

昭和11

ADF



主張者氏名

久世信用組合	常務理事	仁枝茂登治
玉島信用組合	組合長	太田幾次郎
倉敷信用組合	常務理事	井上惣太郎
有漢信用組合	理事	平松類太郎
牛窓信用組合	理事	木村嘉太郎
津山市信用組合	常務理事	上原敬
岡山相互金庫	常務理事	更井久正
福濱信用組合	組合長	田中由造
日比町信用組合	組合長	立石章
岡山購買信用組合	組合長	高見元章
岡山市信用組合	常務理事	西尾元次郎
岡山市民金庫	組合長	福岡末造
勝山信用販賣購買組合	組合長	松山綠次郎
西大寺町信用組合	常務理事	三兼又八
皆部信用販賣購買利用組合	組合長	荒木貞吉

(順位不同)

岡山縣信用組合聯合會ト岡山縣購買販賣組合聯合會トノ合併問題ニ對スル主張

國民經濟ノ發達ニツレ産業組合經濟主義ニ依ル一般庶民經濟ノ向上ハ誠ニ著シキモノ有リ。今ヤ産業組合ノ盛衰ハ直チニ國家經濟ノ動向ニ直接影響ヲ及スニ到レルハ世人ノ等シク之レヲ知ル所ニシテ、産業組合ニ關係シ其經營ニ從事スルモノノ責任ノ重、且大ナルハ今更論ヲ俟タザル所ナリ。産業組合ガ斯ク重要ナル地位ヲ來セル所以ハ一ニ刻下庶民經濟ノ動向ニ克ク合流シ、隣保相助共存共榮ノ實ヲ揚ゲ其機構ニ於テ最モ完備セル統制ヲナセルニ外ナラザルヲ悟ル時、恰モ我岡山縣ニ於テ縣信用組合聯合會ト縣購買販賣組合聯合會トノ合同問題惹起シ、然モ其聲ヲ聞キテ僅々半歲ニ到ラザルニ既ニ合併ノ實現ヲ見ントス。斯ル重大問題ガ一朝ニシテ急轉セントスルヲ見テ、誰カ啞然タラザルモノアラシヤ。果シテ其云フガ如ク徒ラニ兩聯ノ合併ヲ急進セシメンガ爲其方法並ニ時期ノ檢討、適否ヲ充分考慮スル事ナク唯々兩當局委員會ノ欲スルガママニ默視シテ漫然追隨シテ可ナラムヤ。吾人ハ共ニ聯合會ヲ組織セル一員トシテ克ク現在兩聯ノ實狀ヲ調べ本縣産業組合界ノ機構ニ立脚シ、合併ニ對シ忌憚無キ意見ヲ吐露シ以テ榮エアル本縣兩聯合會ノ處置ヲ誤ル事ナク合併後ニ於ケル發展ヲ期セザルベカラズ。吾人ハ産業組合ノ機構ニ於テ縣區域産業組合聯合會ガ、必ズシモ絶對ニ單營ナラザルベカラズト主張スルモノニ非ズ。曩ニ十月二十四日附「中央産業組合新聞」紙上西村農林省金融課長ノ述ベシ如ク縣信用組合聯合會ハ購販事業ヲ兼營スベカラズト云フガ如キハ大ニ考慮スベキ所





ナレドモ現在本縣兩聯合會ノ歴史ト實績ニ鑑ミ徒ラニ他府縣(全國四十三府縣中兼營セルモノ十八府縣ニシテ他ハ何レモ信聯ハ獨立單營ナリ)ノ兼營ニ眞似テ早急ニ實現ヲ圖ル必要ヲ認メズ。今其實狀ヲ見ルニ、本縣兩聯合會ノ經營上必然的ニ合併ヲ期セザルベカラザル理由何レニ存セリヤ。其事業分量ハ兩聯ニ著シキ懸隔アリ且ツ其資産内容ニ到ツテハ雲泥ノ差ヲ認ムト雖モ、兩聯合會ノ獨立經營上聊カモ支障ナク、殊ニ信聯ノ餘裕金ハ購聯ニ於テ消化セシムルニ充分ナル便宜ヲ有シツツ昭和八年以降ノ岡山縣購買販賣組合聯合會ハ剩餘金コソ皆無ト云ヒ得レドモ漸次發達ノ機運ニ向ヒ、所屬組合數ノ増加ト共ニ事業分量頓ニ加ハリ漸ク獨立自營ヲタドリ今ヤ購販聯本來ノ活動ニ邁進セントシ、茲兩三年ヲ以テ將ニ其本領ヲ發揮スル機運ヲ有シ、一面信聯ガ年々莫大ナル貯金ヲ吸收シツツ確實ナル貸出ト所屬組合ノ餘裕金ヲ保全シ、相當ノ剩餘金ヲ生ジツツ妥當ナル經營ヲナセルニ鑑ミ、何ヲ苦ンデ今早急ニ合併スルノ愚ヲ演ゼントスルカ。合併論者ノ所謂縣聯ガ合併シテ兼營スルヲ以テ産業組合機構ノ理想也トセバ、何故徐ロニ兩聯ノ資産内容ノ檢討ヲ成シ以テ所屬組合ノ意向ノ歸一スルノ機ヲ俟タザルヤ。仄聞スル所ニ依レバ、兩聯合會當局ヲ避ケ知事ニ向ツテ合併促進ノ陳情書ヲ提出セルモノアリト且又傳フル所ニ依レバ兩聯合會長ニ宛テ法第二十三條ノ特別法文ヲ楯ニ臨時總會ノ請求書ヲ提出シテ合併ノ急施ヲ迫レルモノ相當數アリト聞ク。

合併實現ノ方策ハ兩聯合會當局ヲ外ニシテ知事ニヨリテナサルモノナリトセルノ矛盾ヲ知ルト同時ニ、斯ク迄縣當局ガ兩聯合會ノ合併ニ干渉セントスルノ反響ヲ感ズル時、吾等所屬組合ハ何ノ顔アリテ聯合會ヲ組織セルモノト云フヲ得ンヤ。

然モ合併促進ノ理由ガ地方産業組合ノ四種兼營ノ故ノミヲ以テ直チニ縣區域聯合會ニ適當セシムル等ノ如キハ淺慮モ甚シキモノアリ。仄聞スル所ニ依レバ該請求書ハ縣當局ノ幹施ニ依リ便宜上三、四組合ノ責任ヲ以テ一時保留セリト、保留トハ再ビ提出ノ威赫の方策ニシテ尙場合ニヨリ請求ノ意志ヲ貫徹セントスルモノノ如シ。惟フニ現兩聯合當局者並ニ役員全員ハ所屬組合ヨリ法第二十三條ノ請求ヲ得ザレバ總會ノ開催不可能ナルガ如キ不信任ナリトセバ直チニ其職ヲ辞退スベク又三、四ノ組合ノ意志ニ依リ折角ノ請求書ヲ保留スルガ如キ薄弱ナル請求書ナリトセバ其暴舉當ニ榮エアル縣下産業組合ノ歴史ヲ汚セルノ罪默視シ能ハズ。況ンヤ兩聯合會理事者ノ中ニ其ノ氏名ヲ存セル者アリト聞クニ到ツテハ寧ロ兒戲ニ類シ神聖ナル産業組合運動者ノ權威何レニアリヤ疑ハザルヲ得ズ。斯ル暴舉ヲ敢テナセル裏面ニ於テ縣當局一部官吏ノ策動セルモノアリト傳ヘラルルハ實ニ本縣行政上遺憾ニ堪ヘサル所ナリトス。

兎マレ兩聯合會合併ノ聲巷間ニ傳ハレルハ近時全國的ノ一空氣トシテ吾人ノ首肯セル所ナルモ、曩ニ委員會ノ案トシテ公表セラレシ産業組合中央會岡山縣支會發行ニ係ル「岡山産業組合新聞」ニ所載ノ委員會決議條項ヲ見ル時、其形式ノ一項ニ就テハ未定ナルモ來ル四月十日財産内容ノ檢討ヲナサズ無條件ニテ合併スルモノノ如シ。吾人ハ合併後ノ經營ニ就テハ他府縣ノ實例ニ依リ多少ノ不安ヲ感ゼザルヲ得ザレドモ、今コ、ニ論及スルノ要ナク只其ノ經營者如何ニ依ルノミナレドモ、合併ノ實現上本縣信用組合聯合會ト購買販賣組合聯合會ト同等視シ若ハ一方ニミ加入セル組合ヲ無視シテ如何ニ共存同榮ヲトナフルト雖モ、其資産内容ニ甚敷等差アルヲ無視シテ對等ノ合併ヲナサトスルハ絕對ニ反對セザルベカラズ。又新聯合會ニ對シ新タ



ニ加入スル事トナレバ該組合ハ豫メ總會ノ意志ニ基クベキモノニシテ、目下多數ヲ有セル出資口數ト持分ハ一度精算處分ヲナスベキナリ。然ルニ斯ル手段方法ヲ採ラザルノ委員會案ニ到リテハ實ニ言語同斷ニシテ經濟意識ノ何レニ存セルヤヲ疑フモノナリ。今昭和十年度末現在ノ兩聯合會財產目錄、貸借對照表ニ依リ兩聯合會ノ概況ヲ對照セバ

科	目	信	聯	購	販	聯
所屬組合數			四〇七			三〇〇
準備金及積立金			一〇〇、五三五			〇〇一
出資口數			八六九			四一三
同拂込濟額			四〇七、六三六			一一〇、四二〇
預金殘高			二、八一〇、六四九			一四、八八六
土地建物機械器具什器			三三三、二二五			七二、三九〇
借入金			六七三、三三七			二〇二、四七四
總利益			四六三、三〇四			七七、三五〇
總損失			四二二、六三四			七七、三四三

中金及聯合會出資金	九四、〇〇〇	五四、〇〇〇
差引利益	四〇、六六九	六

ニシテ斷ジテ購買販賣事業ヲ營ム事ナク、只信用組合聯合會ノ確實ナル經營ニ信賴シテ加入シ多クノ出資口數ヲ有シツツ組合員ノ貯金ノ保管ト資金ノ運用ヲ托セルノミ。然ルニ將來其有セル餘裕金ヲ以テ米麥肥料ノ販賣購買ノ事業ヲ行フ場合ニ於テハ取扱品ノ時價ノ急激ナル變動ニ依リ不安ヲ齊ラスノ結果トナリ得ベシ。論者或ハ最近ノ購販事業ハ斷ジテ危險ナシト叫ブガ如キモ米麥ノ統制販賣ニ於テハ殆ンド危險ヲ免ルル事ヲ得ルモ、其斡旋ニ依リテ幾何ノ利益ヲ生ジ得ルヤ。素ヨリ産業組合ノ本質上營利ヲ目的トセザルモノタル事ハ論ヲ俟タザルモ、其ノ經營費ト準備積立金ノ稔出ハ必然的ノ業務ナリト云フベシ。尤モ過去ニ於ケル縣購販聯合會ハ昭和六年度ニ八千參百八拾壹圓、昭和七年度ニ五千五百六拾貳圓、昭和八年度ニ四千八百七拾六圓、昭和九年度ニ壹萬貳千五百拾九圓ノ欠損金ヲ生ジ漸ク十年度ニ於テ僅々六圓餘ノ剩餘金ヲ生ゼルガ如キニ不拘、聞ク所ニ依レバ十一年度ニ於テハ肥料ノ値下リニ依リ多額ノ損失ヲ招ケリト果シテ然リトセバ購買事業ガ其時價ノ變動ニ依リ損益ニ著シキ影響ヲ齎ス事ハ到底否定シ得ザル所ニシテ、吾人ノ所謂確實ナル金融專門ノ業務ニ比シ其危險性ノ多キヲ稱フル所以也。論者ハ信用事業ニ於テ多額ノ有價證券ヲ有スル事ヲ以テ危險也トシ且其ノ餘裕金ヲ以テ徒ラニ有價證券ニ投資スルノ非ヲ論ズルモノアリ。然リ信用組合本來ノ業務タル貸付ノ合理的進歩ハ吾人ノ最モ嬉ブベキ事トナスト雖モ本縣信用組合聯合會ノ狀況ガ其貯金(十年



度受入總額參千五百拾五萬圓、拂戻額參千七百八拾壹萬圓、殘額八百八拾壹萬圓)ニ比シ貸出(十年度貸出總額九百九拾五萬圓、總償還額千貳拾六萬圓、殘額貳百七拾六萬圓)ノ僅少ナル所以ヲ聞ク時其貸付方法ノ巧拙ヲ論ズル前ニ、須ク所屬組合ガ果シテ能ク信用組合聯合會ノ資金ヲ消化スル程度迄其業務ヲ理解セルヤ否ヤヲ省ル事ヲ先決トセザルベカラズ。若シソレ有價證券投資ヲ以テ購販事業ノ如ク危険ナリト考フルモノアラシカ、投機的ニアラザル以上國債、地方債ヲ以テ米麥肥料ノ時價變動ト同一視セルモノニシテ謬見モ甚シキモノト云フベキナリ。斯ク論ジ來リシ時吾人必ズシモ合併ニ反對セザルノミナラズ産業組合ノ機構上寧口四種兼營ノ聯合會ハ合理的ノモノナル事ヲ是認スト雖モ、翻ツテ本縣兩聯合會ノ現狀ヲ凝視スル時ハ徒ラニ合併ヲ急速ニ實現スルノ要ナク、況ンヤ今次ノ革命的運動ニ依リ所屬組合ノ反動甚敷ノ時ニ於テ合併スベカラザルハ産業組合精神ニ鑑ミ明ラナル事也。故ニ相當ノ期間ヲ以テ互ヒニ準備工作ヲ鍊リ共ニ資産ノ内容ヲ檢討シテ公平ナル條件ノ下ニ合併ノ實現ヲ期センカ、所屬組合誰カ之ニ反對スルモノアラムヤ。所謂圓滿ニシテ適切ナル最モ精神的共存共榮ノ實ヲアゲ得ベキモノナリト信ズ。茲ニ縣下産業組合界ノ不祥時トモ見ラルベキ非常時局ニ直面シ敢ヘテ吾人ノ所見ヲ批撫シ各位ノ賛同ヲ得ムトス。

## 主 張

岡山縣信用組合聯合會ト岡山縣購買販賣組合聯合會トノ合併ニ關シテ吾人ハ次ノ主張ヲナスモノナリ。

- 一、急速ナル合併ヲ避ケ能ク所屬組合ト兩聯合會當局者ト懇談ヲトゲ、徐々ニ準備工作ヲ進メ以テ最モ圓滿適切ナル方法ニ依リ其時期ヲ誤ルベカラズ
- 一、兩聯合會合併ヲナサムトセバ須ク互ニ其ノ内容ノ檢討ヲ行ヒ所屬組合ノ持分ヲ確保スベシ。
- 一、目下ノ如キ狀況ヲ以テ合併セントスル場合ハ斷シテ無條件對等ノ形式ヲ廢シ、最モ適當ノ條件ヲ附スベシ。
- 一、合併ニヨル各所屬組合ノ有スル出資口數ノ増減ハ當然該組合ノ自由トナスベシ。



342  
764

昭和十一年十二月六日印刷  
昭和十一年十二月九日發行

編輯兼  
發行者 岡山市福島六七一番ノ第二  
田 中 由 造

印刷者 岡山市紙屋町二十五番地  
吉 岡 義 夫

印刷所 岡山市紙屋町二十五番地  
第一 印刷

發行所 岡山市福島六七一番ノ第二  
岡山縣信用組合有志會



